

第2回置賜定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

【日時及び場所】

日 時 令和2年3月23日（月）10時30分～12時00分

場 所 置賜総合文化センター 203 研修室

【出席者】

委 員 尾形健明委員、清野雅好委員、亀岡淑子委員、我妻行芳委員、
柴田正孝委員、小川正昭委員、佐藤みさ子委員、遠藤央子委員、
中井晃委員、鈴木和他委員、宮原博通委員、高橋和衛委員、
守屋由美委員、米野斉巳委員（水野由利子委員、松田圭悟委員、
藤倉利英委員 欠席）

オブザーバー

置賜総合支庁総務課連携支援室長、長井市総合政策課長補佐、
南陽市みらい戦略課長補佐、高畠町企画財政課企画調整係長、
川西町未来づくり課政策調整主幹、小国町総合政策課長、
白鷹町企画政策課長、飯豊町企画課総合政策室長

事務局 米沢市総合政策課長、総合政策課長補佐、総合政策課企画調整主査、
総合政策課主任、置賜広域行政事務組合総務課長、総務課長補佐、
総務課企画財政係長

米沢市担当課

総務課人事研修主査、総合政策課地域振興主幹、環境生活課長、
環境生活課危機管理室長、社会福祉課障がい者支援室長、こども課長、
健康課長、高齢福祉課長、商工課長、観光課長、農林課長、土木課長、
業務課長補佐、市立病院事務局総務課長、社会教育課長、文化課長、
学校教育課長

【次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
- 4 その他
- 5 閉会

【議事録（要点筆記）】

2 会長あいさつ

今回の議題は、事業の進捗状況及び共生ビジョンの改定についてである。この2点について慎重なご審議をお願いしたい。

3 議事

- （1）置賜定住自立圏共生ビジョンに係る事業の進捗状況について

事務局 資料 1、2に基づき説明。

会 長 今の説明に対して質問、意見があればいただきたい。

委 員 有害鳥獣対策について、担い手の支援の状況をお聞きしたい。サル・クマなどの被害がなぜ少なくならないのかと感じている。

担当課（農林課） 担い手確保について米沢市の事例を報告させていただきたい。平成 27 年度から、新たに狩猟免許を取得し猟友会に加入する方を対象に費用の支援を行っている。今年度 8 名、昨年度 7 名、一昨年度 8 名と、毎年 7、8 名の方に支援を行っている。しかし、猟友会の平均年齢が高くなっており、お辞めになる方も同じくらいいるため、現状維持となっている。お勤めになっている方もいるため機動的に動けないという課題もある。サルについては、以前からむやみやたらに捕獲するとかえって群れが分散し被害が拡大するという専門家の意見もあり、慎重に捕獲している。サルより被害が顕著になっているのがイノシシであり、米沢市では、今年度から大型の檻を設置し、ICT 技術で遠隔操作を組み入れた捕獲の実証実験を行っている。猟友会と協力しながら鳥獣対策を行っていることをご理解いただきたい。

委 員 各種講座、企画展等の実施について、各市町では SNS 等を使った情報発信を行っているのか。

長井市 ホームページ、フェイスブックで情報発信している。若い世代では SNS で情報収集する方が多いため、そちらの取組も今後進めていきたい。

南陽市 即時性という面で、ホームページよりフェイスブックでの発信をこまめに行っている。併せて、年明けにラインの公式アカウントを取得しており、情報発信を強化していきたい。

高畠町 ホームページ、フェイスブックを活用している。若い方には SNS、高齢の方にはポスター・チラシというように、様々な方をターゲットにした周知を図っている。

川西町 現在はフェイスブックを中心に情報発信しているが、新たな媒体での発信を検討している。

小国町 ホームページ、フェイスブックを活用しているが、更に工夫を加えていく必要があると考えている。

白鷹町 ホームページ、フェイスブックを活用している。ホームページをスマホ用に最適化できるように検討している。

飯豊町 ホームページで周知している。SNS の積極的な活用とまではなっていないため、今後検討していきたい。

会 長 イベントには他市町の方も参加できるのか。

事務局 他市町の方が参加できるものもある。そういったものについては周知を図っていききたい。

委 員 道の駅米沢を中心とした広域観光の推進について、「たまぷり」のクーポンのページが機能していない。クーポンのページにまちナビカードの情報を載せるなど、道の駅米沢の機能を「たまぷり」に連動させるような取組はできないか。

担当課（観光課） 「たまぷり」は米沢市で運用しており、3 月現在で約 2,000 件の登録がある。運用開始して間もないこともあり、クーポンの利用につながっていないことは承知している。まちナビカードとの連携、関係団体、他市町と連携したアプリを使った展開など、今後検討していく。

委員 消防・防災体制の強化に関連して、防災士にどのような活動を期待しているか。また、防災士になる方法を説明してもらいたい。

担当課（危機管理室） 防災士は、山形県の事業である防災士養成講座の受講により取得できる。費用（約2万円）は県と各市町の負担となっている。米沢市ではこれまでに約30名が取得している。消防団の分団長以上の方は、市町による証明があれば防災士の資格が得られる。防災士には、自主防災組織の立ち上げや自主防災組織における研修・訓練のリーダーとしての活動を期待している。

委員 地球温暖化による自然災害の大規模化等の問題がある中、持続可能な都市環境を築いていくため、再生可能エネルギーの利用促進は非常に重要である。長井市が主体的に動いているようであるが、いかに3市5町の足並みをそろえるかが課題と思うがどうか。

長井市 現在は、再生可能エネルギーの利用について、長井市・川西町を対象に可能性調査を行っているところである。令和2年度には対象を置賜全域に広げ、どのような取組ができるか調査・検討していく予定である。

委員 地域おこし協力隊について、各市町の隊員数、活動内容、任期後の定住の状況を教えていただきたい。

担当課（総合政策課） 協力隊の定員は3名でフリーミッション型をとっている。コミセンの手伝いのほか、パソコン教室や料理教室など得意分野を生かした活動も行っている。昨年度は4名中3名が定住している。今年度は3名のうち1名は2月に辞め市内に就職しており、残り2名も任期後は定住する意向である。

長井市 協力隊の活動分野の条件を付けて募集している。文化施設の活用（まち歩き文化回廊）、建物の活用、観光施設のコーディネート等について活動を行っている。任期後は、市内で飲食業を立ち上げた方や協力隊の活動が縁で川西町に定住した方がいる。

南陽市 今年度まで3名の協力隊に活動していただいた。課題解決型をとっており、1名はまちづくり、2名は農業・不動産業の活動をお願いした。まちづくりの活動をしていた方は、任期中にカフェをオープンした方で、任期後の現在もカフェを続けているほか、ICT関係で子供たちへの教育や様々な講座等に関わってもらっている。3名中2名が市内に定住している。

高畠町 現役の隊員が4名、退任した隊員が3名となっている。現役の隊員のうち1名は町役場の商工観光課において観光による町おこし、1名は企画財政課においてSNSやスポーツを通したまちづくり、残り2名は高畠熱中小学校の運営に携わっている。退任した隊員3名のうち、2名は町内に就職し定住しており、1名は南陽市で就職している。

川西町 現在8名の隊員がおり、農業研修生が多い。任期後は、町内の農業法人等に就職し定住している方が多い。

小国町 緑のふるさと協力隊と地域おこし協力隊の両方が活動している。地域おこし協力隊については、農業支援員、集落支援員、農業分野、商業分野等で活動している。十数年にわたって廃校を活用した芸術活動と地域づくり活動をしている方がおり、この方を今年1月に協力隊に任命し引き続き活動をお願いしている。小国高校が文科省の事業で協働による高校の魅力化づくりに取り組んでおり、そのコーディネーターとして隊員を募集している。任期後は、緑のふるさと協力隊を含め4名の方が定住している。

白鷹町 現在5名の方が活動している。観光協会での山歩きなどの活動、今年新設される図書館での活動、コミセンでの紅花栽培や加工用ブドウに関する活動、オリンピック・パラリンピックのホストタウンに関連した中国ソフトボールチームとの

交流事業を行っている。現在3名が定住しており、そのうち2名は中山地区と一緒にゲストハウスを開いている。もう1名は、教育委員会に配属されており、養蚕の資料等を整理する歴史・文化のコーディネーターをお願いしている。また、今年度1年活動した方で、残り2年は活動せず、農業をして定住したいという意向の方が1名いる。

飯豊町 今年度は1名の隊員がおり、移住定住コンシェルジュとして、移住相談等の業務を担っていただいている。新年度は、新たに観光商品開発で1名の採用が決まっているほか、廃校の有効活用に関して隊員を募集する予定である。

委員 各市町で様々な活動をしており、定住につながっているケースもある。定住につながらなかった理由は何があるのか。

担当課（総合政策課） 協力隊の住居の経費は行政が負担しており、任期後はその経費も自己負担となる。そういった経費と仕事（職種）の問題があり、定住につながらなかったと聞いている。

委員 広域的な公共交通網の整備に向けた検討について、白鷹町ではデマンドタクシー利用者に対するアンケート調査を行っているが、その結果について教えていただきたい。

白鷹町 デマンドタクシーに登録している方（約1,000人）を対象に利用状況や満足度等についてアンケート調査を行った。利用状況としては、一番多いのは医療機関、その次は買い物、そのほかには床屋・美容院等となっている。白鷹町から公立置賜総合病院に行くには、山交バス、フラワー長井線、タクシー、家族の送迎などが考えられるが、タクシーで行く場合は6,000円程度かかる。また、フラワー長井線とデマンドタクシー、山交バスと長井市営バスなど、公共交通機関を組み合わせても、埋まらない部分がある。そういったこともあり、白鷹町立病院から公立置賜総合病院まで、往復2便ではあるが、半年間の実証実験を行うこととなった。アンケートでは、通院する方に加え、お見舞いに行く方の移動手段もないとの話もあり、利用も見込めるのではないかと考えている。

（2）置賜定住自立圏共生ビジョンの改定について

事務局 資料3に基づき説明。

会長 今の説明に対して質問、意見があればいただきたい。

委員 一時預かり事業の広域的利用について、ビジョンの改定案には広域的利用に関する方針が入っていない。事業進捗状況（資料1）では、広域的利用の協議が必要であると課題に挙がっているが、それを反映した内容にしてはどうか。

担当課（こども課） 今後、広域的利用について、各市町と連携が図れるかどうかを議題にしていきたい。

（3）その他

会長 全体を通して質問、意見があればいただきたい。

委員 奥羽新幹線のフル規格化と福島ー米沢間トンネル整備に向けて運動を行っているが、フル規格になると高畠駅と赤湯駅に停車しなくなるとの話を聞いている。赤湯駅で新幹線が停車しなくなれば、フラワー長井線の利用拡大にもかかわってくる。福島ー米沢間のトンネル整備と並行して、新幹線の赤湯駅への停車についても運動を行ってもらいたい。

担当課（総合政策課） フル規格新幹線については、基本計画に位置付けられているが、整備に向けた調査を実施してもらう必要があり、その調査を受けて様々な議論が出てくる。JR では、雪や動物で山形新幹線の運休が多いことから、福島―米沢間のトンネル整備に関する試算を出しており、まずはフル規格新幹線を見据えたトンネル整備について県と一緒に運動しているところである。トンネル整備だけで 20 年かかる事業であり、その先のフル規格新幹線については調査をしないとルートや金額は出てこない。在来線の話はこれから議論が必要となるが、現在はフル規格新幹線の前段の運動であることをご理解いただきたい。

委 員 こどもの屋内遊技場の整備について、高畠町のもつくるの利用状況が、町内 3 割、町外 7 割となっており、置賜地域にいかにも屋内遊技場がなかったかという証ではないかと思う。米沢市にも木育遊技場ができたが少し狭い。もつくるも利用者の要望などを聞きながら充実した施設にしていってほしい。また、もっと置賜地域に屋内遊技場が欲しいという希望を申し上げたい。

4 その他

事務局 新年度は、改定したビジョンに基づき各施策を実施していく。新年度のビジョン懇談会については、日程を調整し、開催のご案内をさせていただきたい。

5 閉 会

事務局 以上で、第 2 回懇談会を終了する。